



平成26年12月期 第2四半期
決算説明資料
(2014年度)

2014年8月5日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

業績概要（2014年第2四半期）

	2013年 1-6月	2014年 1-6月
	億円	
石油事業営業利益 (CCS*ベース)	174	14
エネルギーソリューション事業営業利益	48	111
CCS*ベース営業利益	222	125
経常利益	439	173
CCS*ベース経常利益	229	129
当期純利益	300	140
1株当たり当期純利益(円)	79.7	37.1

営業活動によるキャッシュ・フロー	456	-327
1株当たり配当金(円)	18.0	19.0

(注)「その他」および「調整額」は石油事業に含む

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)

2014年第2四半期 決算

- 経常利益およびCCSベースの経常利益ともに、前年同期を下回った。4-6月のCCSベース経常利益は前年同期比で増益
- 石油事業の営業利益は前年同期比で悪化した一方、エネルギーソリューション事業は増益
- 営業キャッシュフローについては、運転資金の一部において、期末期初のタイミング差異が生じること等に起因してマイナス

石油事業ハイライト

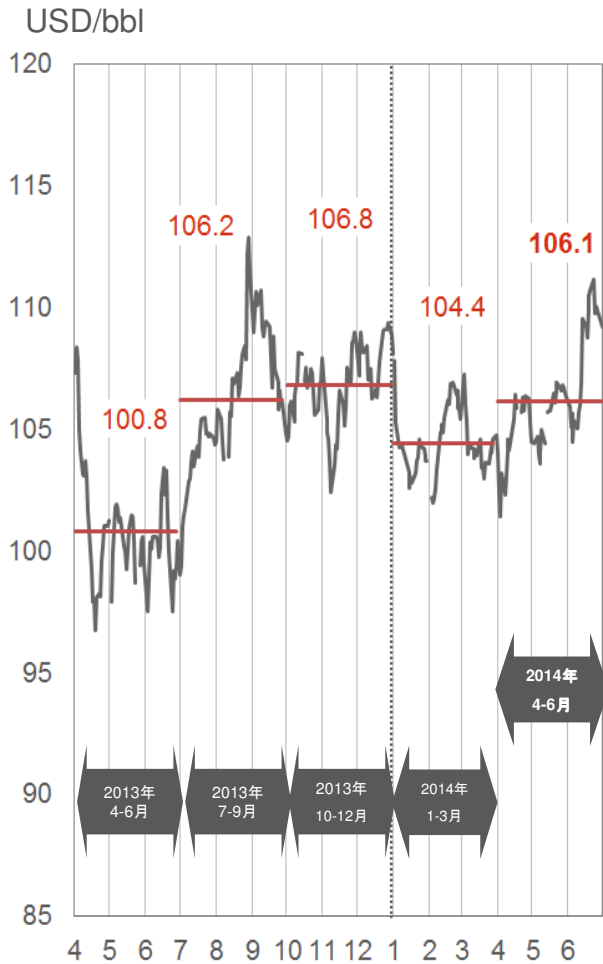
- 国内燃料油マージンが大幅に改善したことを主因に、4-6月のCCS営業利益は前年同期比で改善
- ガソリン・軽油などの主要4油種国内販売数量は前年同期比で業界平均を上回る伸び率
- グループ製油所は業界平均を上回る高稼働を維持。京浜製油所の定期修理は計画通りに完了

エネルギーソリューション事業ハイライト

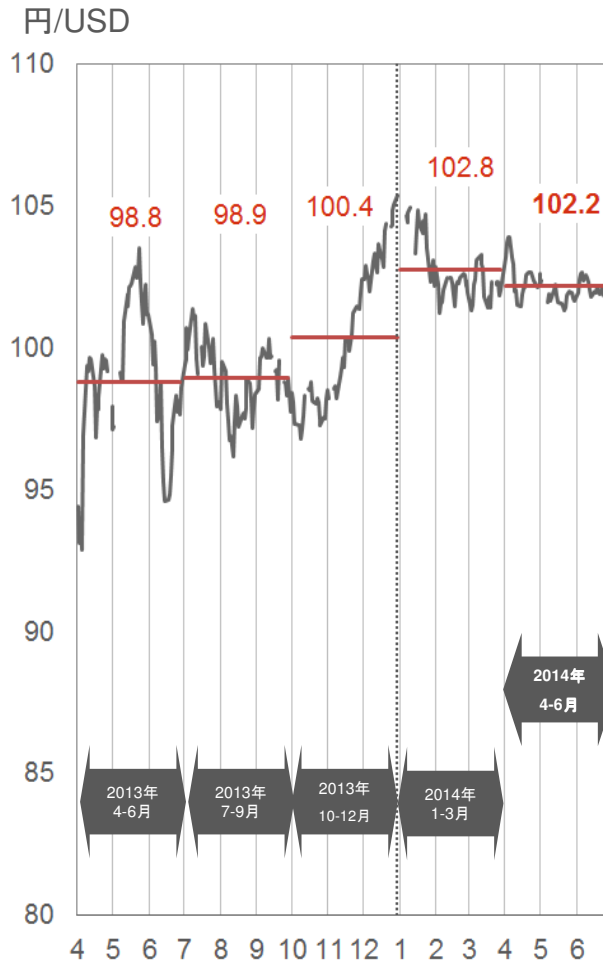
- 営業利益は、前年同期比で増益
- (太陽電池事業) 営業利益は当初計画を達成
- (太陽電池事業) 安定的な工場稼働をベースに、ワット当たり生産コストは計画に沿って順調に低減
- (電力事業) 効率的な発電所稼働および販売チャネル多様化の成果により堅調な利益を確保

事業環境－原油、為替

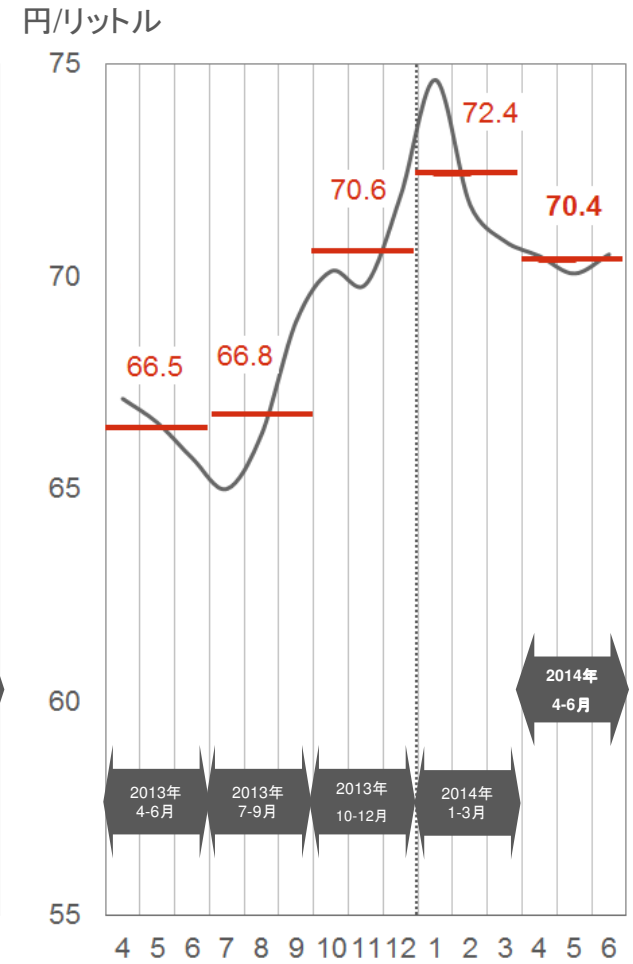
ドバイ原油価格



為替レート(ドル)



原油通関CIF価格

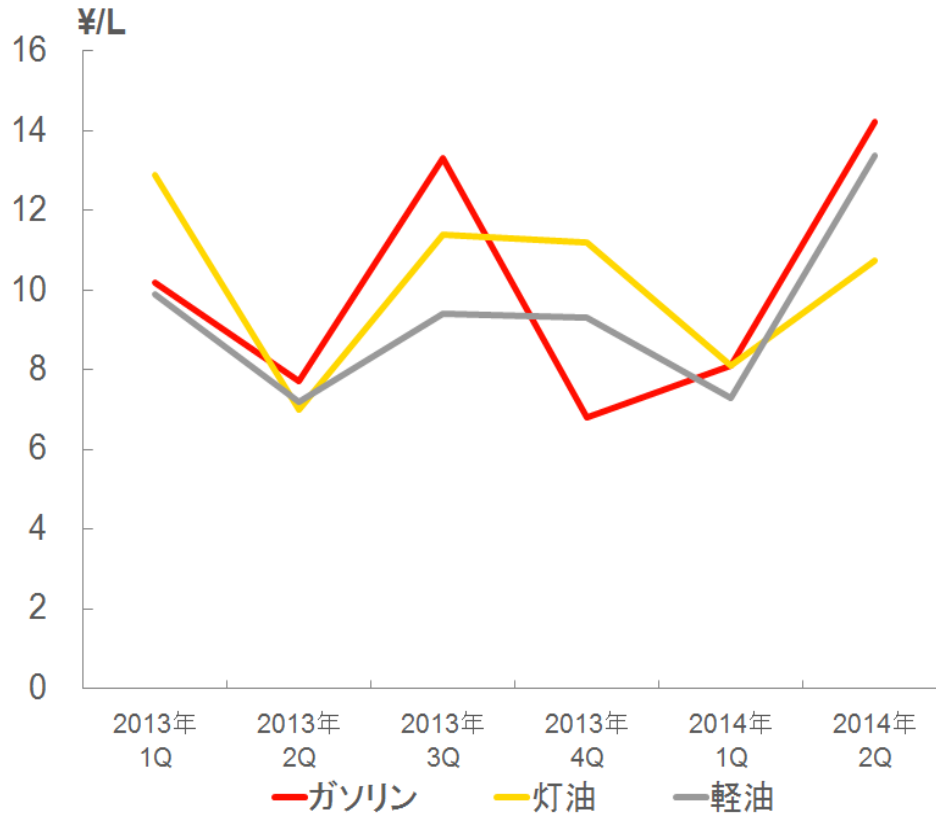


出所：財務省「貿易統計」

事業環境－石油事業

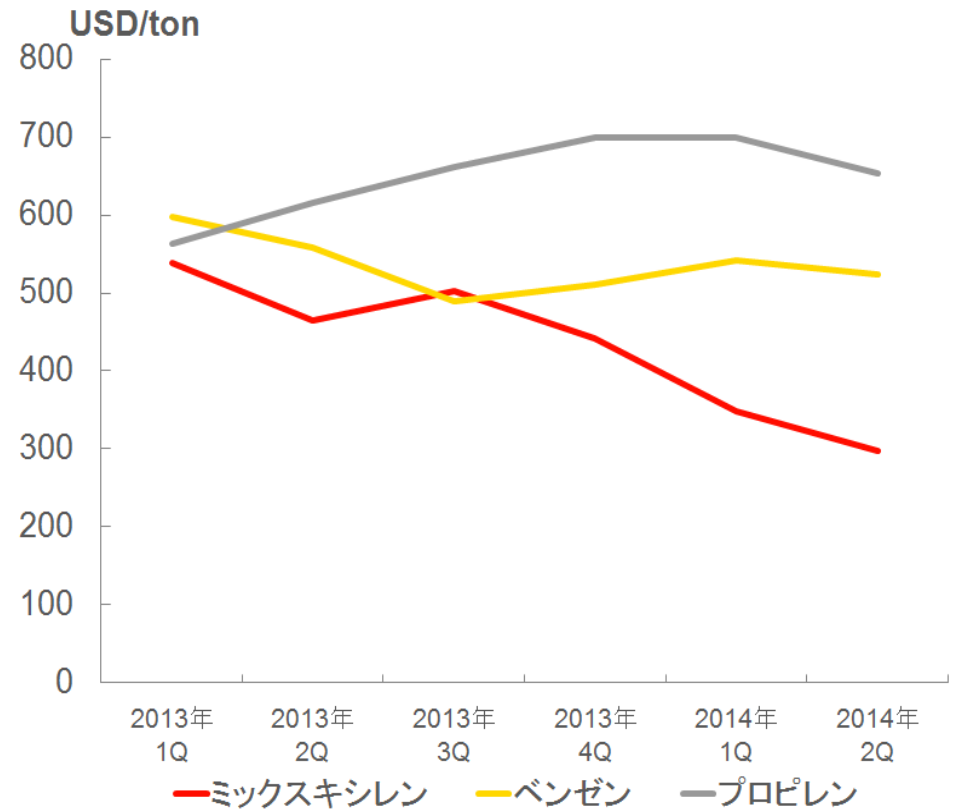


国内石油製品マージン



※ 国内スポット価格－原油通関CIF

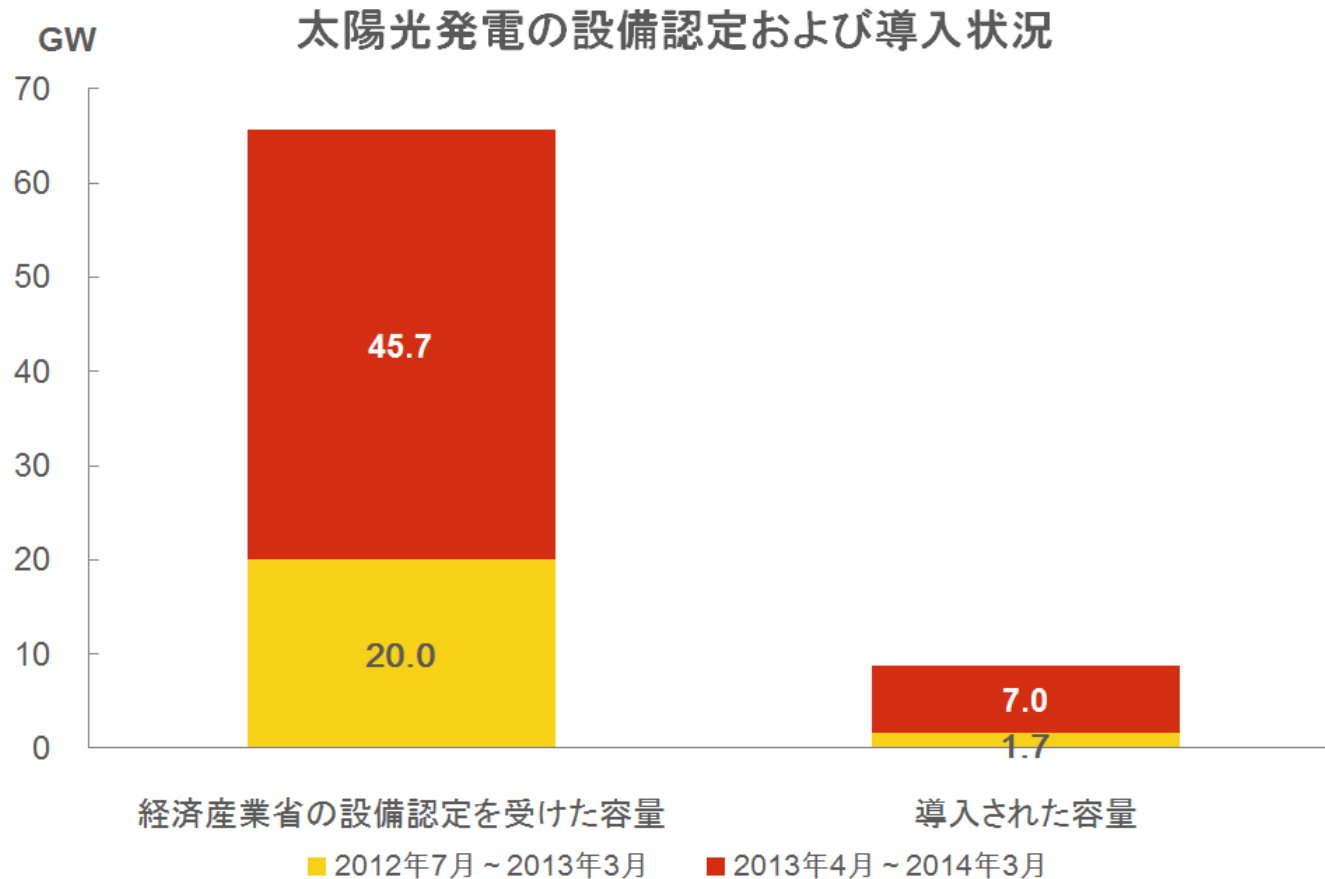
アジア極東地域 化成品マージン



※ スポット製品価格－ドバイ原油スポット価格

- 「エネルギー供給構造高度化法」を受けた業界全体の精製能力削減および定期修理によって製品需給が改善したことに加え、原油調達コストをより反映できる卸価格決定方式へと変更したこと等により、第2四半期の国内燃料油マージンは大幅に改善
- ミックスキシレンのマージンは前四半期比さらに低下したものの収益性は確保。ベンゼンおよびプロピレンのマージンは比較的高い水準で推移。引き続き生産・販売の最大化を行った

事業環境－太陽電池事業



出典：資源エネルギー庁

※「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」に基づく設備認定量、導入量であり、本制度を適用していない案件は含まれません。

- 再生可能エネルギー固定価格買取制度のもと、2年目の買取価格36円/kWh(税抜)で認定された太陽光発電システムは45.7ギガワット(GW)にのぼり、前年度の2倍以上となった
- 設備認定を受けた容量と実際に設置導入された容量の差を考慮すると、国内における太陽電池パネルの需要は当面高い水準で推移すると見込まれる

決算ハイライト (1-6月)

■ 原油価格および為替レート

		2013年度 1-6月実績	2014年度 1-6月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	104.4	105.3
為替レート	(円/USD)	95.7	102.5
	(円/EUR)	125.6	140.4

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2013年度 1-6月実績	2014年度 1-6月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	1,415,903	1,540,033	+ 124,130	+8.8%
営業利益	43,255	16,885	- 26,370	-61.0%
営業外損益	721	420	- 300	-41.7%
経常利益	43,976	17,305	- 26,671	-60.6%
※在庫影響	21,025	4,340	- 16,684	-79.4%
※CCSベース経常利益	22,951	12,965	- 9,986	-43.5%
特別損益	2,726	769	- 1,957	-71.8%
当期純利益	30,031	14,000	- 16,030	-53.4%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報 (1-6月)

■ 売上高

(百万円)	2013年実績 1-6月	2014年実績 1-6月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	1,346,005	1,470,068	+ 124,063	+9.2%
エネルギーソリューション事業	65,710	65,882	+ 171	+0.3%
その他	4,187	4,082	- 104	-2.5%
売上高 計	1,415,903	1,540,033	124,130	+8.8%

■ 営業利益

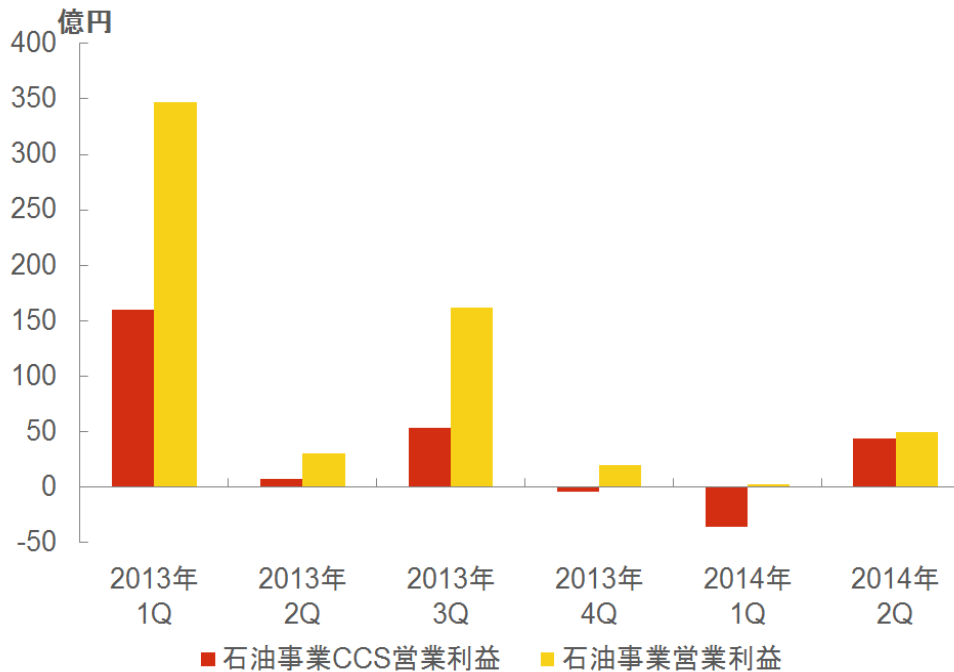
(百万円)	2013年実績 1-6月	2014年実績 1-6月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	37,821	5,169	- 32,652	-86.3%
※在庫影響	21,025	4,340	- 16,684	-79.4%
※石油事業CCS営業利益	16,796	828	- 15,968	-95.1%
エネルギーソリューション事業	4,812	11,114	+ 6,302	+130.9%
その他	628	578	- 49	-7.9%
調整額	-7	22	+ 30	-
営業利益 計	43,255	16,885	- 26,370	-61.0%
※CCS営業利益 計	22,230	12,544	- 9,685	-43.6%

- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

2014年1-6月 業績概要



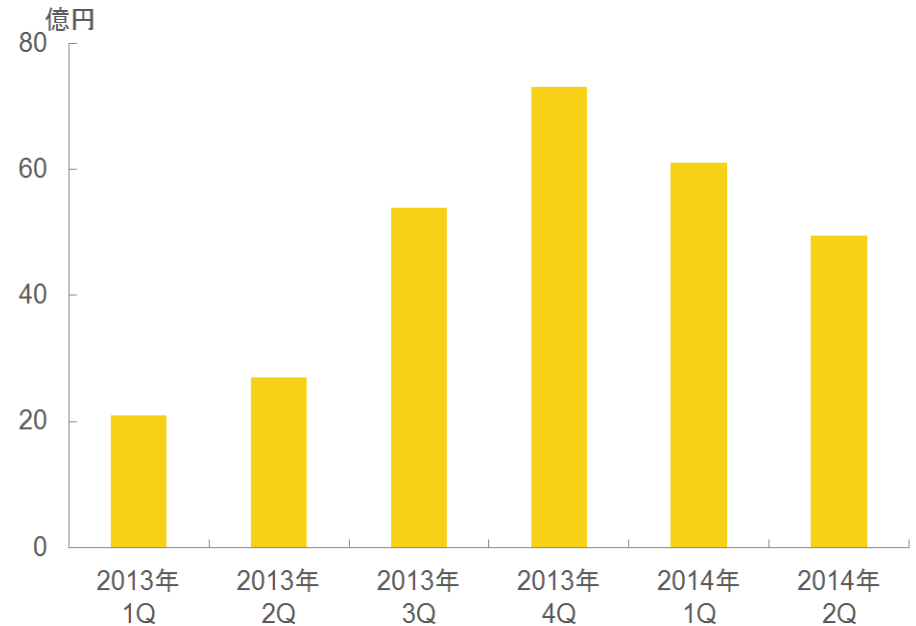
石油事業



- 第2四半期のCCSベース営業利益は前四半期比および前年同期比で大幅に改善。需給の引き締まりによって国内燃料油マージンが大きく改善したことが主因
- 第2四半期も在庫影響が利益押し上げ要因となるも、その規模は限定的



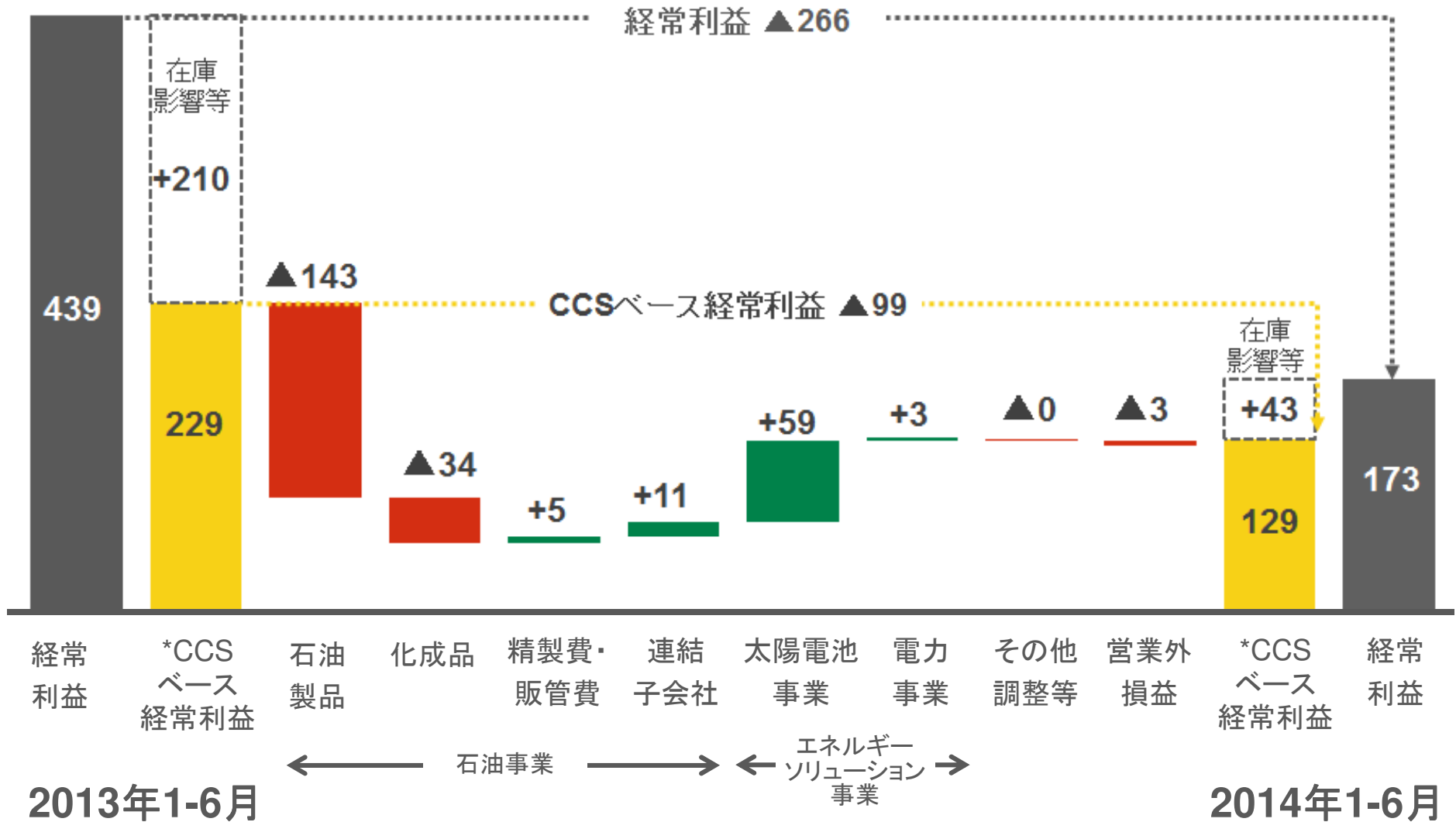
エネルギーソリューション事業



- 第2四半期営業利益は前年同期比で増益
- 電力事業では、定期修理によってGENEXの稼働が低下したものの、扇島パワーが効率の高い操業を維持し、安定した収益を確保
- 太陽電池事業の利益は前年同期比で増益、年初計画を達成。国内市場にフォーカスした販売および生産コストの低減が貢献

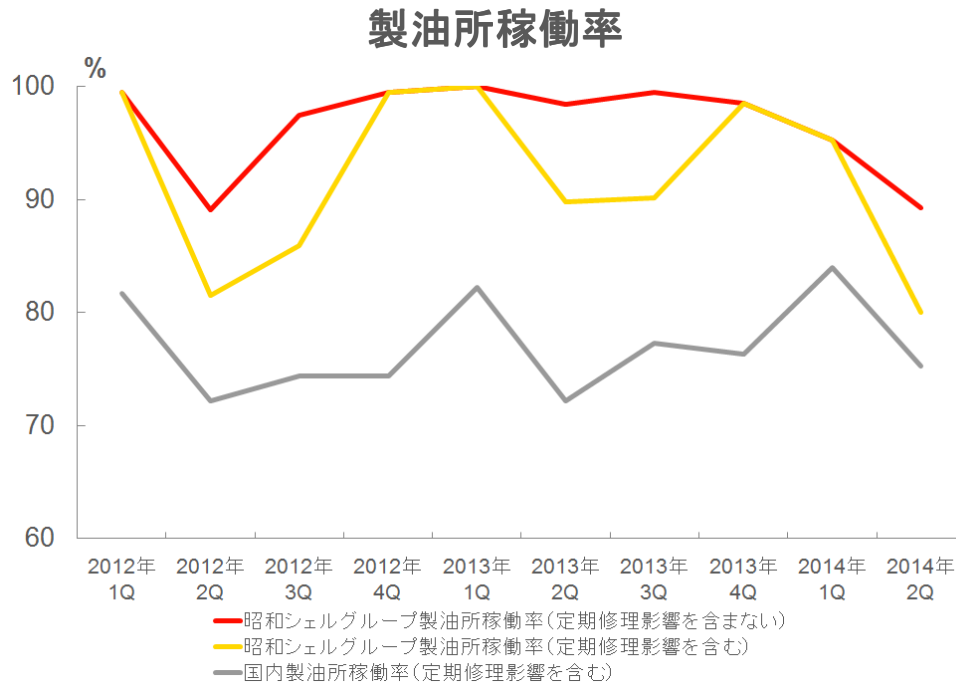
前年同期比 要因分析(経常利益)

単位：億円

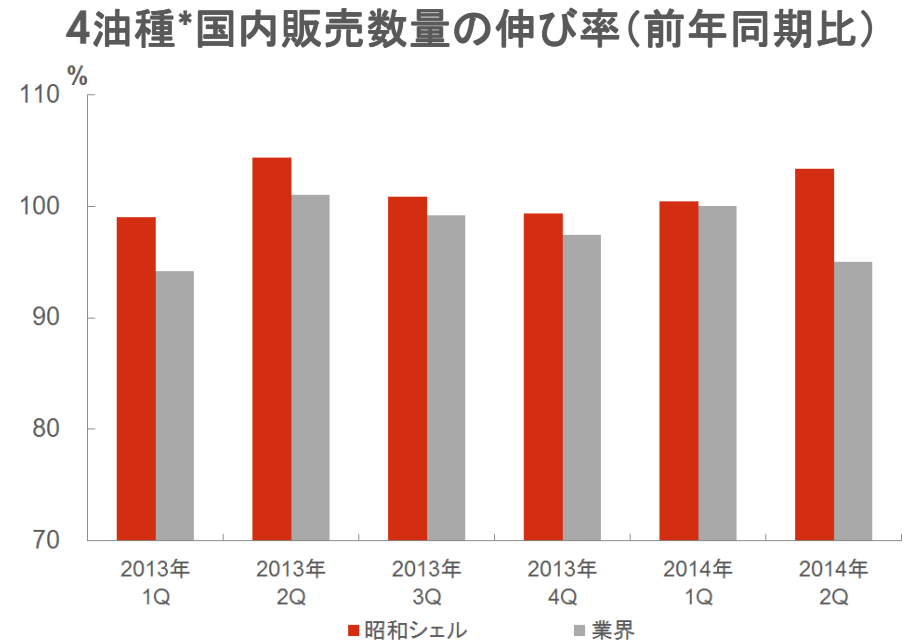


* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

事業概況 2014年1-6月－石油事業



出典：石油連盟



*4油種： ガソリン、灯油、軽油、A重油
 出典： 経済産業省「資源・エネルギー統計」
 ※2014年2Qの業界は速報値

- 第2四半期のグループ製油所稼働率は、京浜製油所の定期修理により低下したものの引き続き業界平均を上回った。2月より海外輸出向けに増強した四日市製油所の原油処理能力については、所期の方針に基づき輸出経済性見合いで稼働
- 比較的付加価値の高い燃料油であるガソリン、灯油、軽油など4油種合計の国内販売数量の伸び率は、第2四半期においても引き続き業界を上回った
- 引き続き化成品を最大限生産するとともに、経済性を見極めながら製品輸出を実施。化成品、輸出ともに上半期の数量は前年同期を上回った

原油処理実績と販売数量実績 (1-6月)



■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2013年度 1-6月実績	2014年度 1-6月実績
原油処理実績	(千KL)	10,784	11,001
稼働率	(%)	94.9%	87.4%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

■ 製品別販売数量

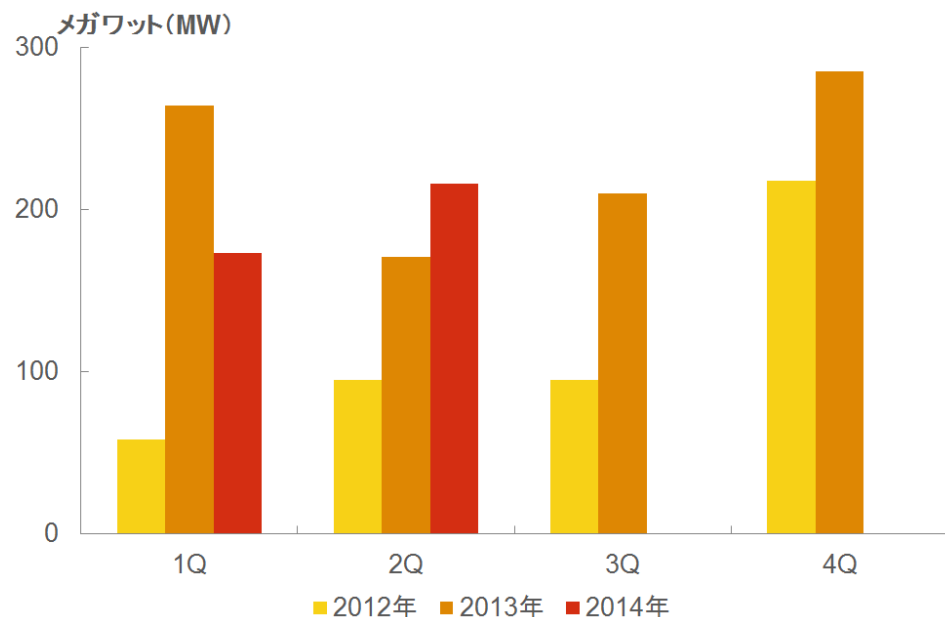
(千KL)	2013年度 1-6月実績	2014年度 1-6月実績	前年同期比
揮発油	4,289	4,203	- 2.0%
ジェット燃料	934	880	- 5.8%
灯油	1,503	1,498	- 0.3%
軽油	2,513	2,661	+ 5.9%
A重油	852	957	+ 12.3%
C重油	712	604	- 15.2%
化成品* (千MT)	470	540	+ 14.8%
その他	1,559	1,437	- 7.8%
国内販売合計	12,833	12,779	- 0.4%
輸出	532	1,006	+ 89.2%
総合計	13,364	13,785	+ 3.1%

*化成品: ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

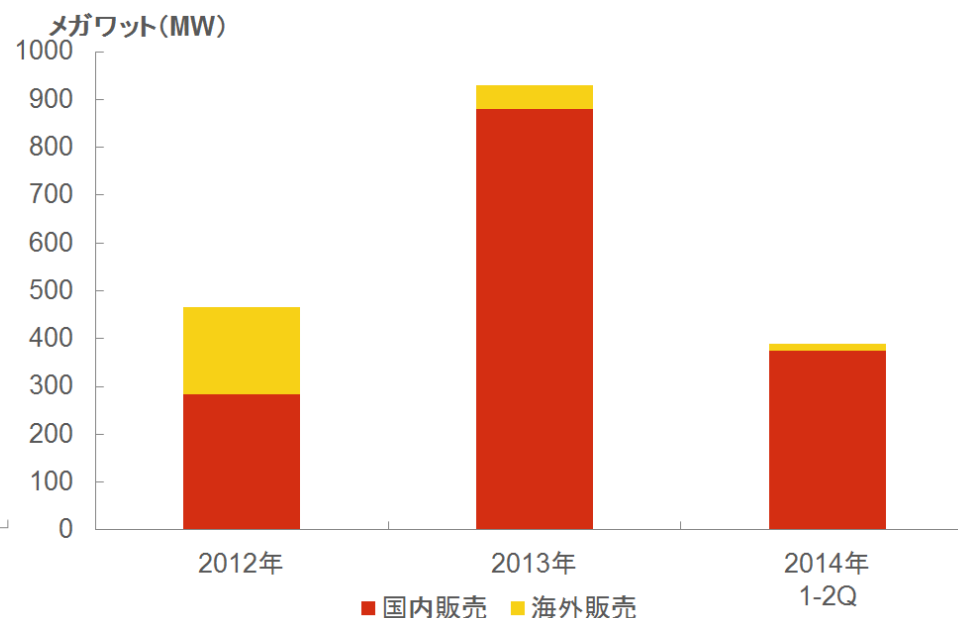
事業概況 2014年1-6月ー太陽電池事業



四半期別 モジュール出荷数量



地域別モジュール出荷数量



- 第2四半期のパネル出荷は、堅調な国内需要を背景に前四半期比、前年同期比ともに増加
- 収益性の高い国内市場にフォーカスした販売を継続し、上半期は全体の90%以上を国内市場に販売
- 海外市場向けは、中・長期的な販売戦略の視点から、引き続き選択的に販売
- 国富工場では小規模な定期修理を除いては第2四半期もフル稼働を維持。宮崎第2工場もフル稼働を継続
- 国富工場のワット当たり生産コストの低減は計画に沿って順調に進捗

2014年1-6月事業戦略の進捗



石油事業 「国内No.1の収益体質となる」

中期経営アクションプラン	2014年1-6月に推進した戦略
オーガニック・グロース (既存事業の継続成長)	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内販売規模の維持 ■ 付加価値向上によるマージンの改善 ■ サプライチェーンを通じたコスト削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 顧客基盤拡大に向け、「Shell Starlex Card」をリニューアル、より魅力的なキャッシュバックを導入 ■ 差別化商品として新ハイオクガソリン「Shell V-Power」の7月発売に向け準備 ■ 2013年から取り組んでいる構造的コスト競争力の改善は、2015年までに少なくとも260億円(2012年比)の計画に対し、2014年6月末までに213億円を達成
ステップ・チェンジ (事業構造改革による成長)	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 石油化学事業の拡大 ■ 他社との協業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 四日市製油所に化成品を増産するための不均化装置の建設を決定 ■ 東燃ゼネラル石油株式会社と、供給相互最適化に向けてさらに取り組みを推進 ■ コスモ石油、住友商事および東燃ゼネラルと、LPガス事業の統合に関する検討を継続

(注) 当社は、基幹事業の効率化と収益力強化を「オーガニック・グロース」、また未来の成長に向かって経営資源を投入することを「ステップ・チェンジ」と定義しています。

構造的コスト競争力改善の進捗

抜本的な既存コスト構造の見直し 2014年上半期の進捗および内訳

単位: 億円

	精製費・ 販管費	原材料 費	付加価 値創造	合計		2014年 下半期～ 2015年	2013-2015年 合計
供給	50	103	18	171			
販売	19	5	0	24			
管理	16	2	0	18			
2013～ 2014年上半期 合計	85	110	18	213	+	47億円 +α	= 260億円+α

注: 削減額は、2012年度実績との比較

- 2014年上半期中に、78億円の構造的コスト競争力改善を達成。取り組み開始から1年半で累計213億円を達成
- 計画より早いペースで進捗しており、利益へのより高い貢献を目指し、活動を継続実施

注: 上記の改善金額は、一過性コストおよび成長戦略実行に伴うコストの発生により、精製費および販管費において一部の効果が会計上では相殺されています

2014年1-6月事業戦略の進捗



エネルギーソリューション事業

中期経営アクションプラン	2014年1-6月に推進した戦略
太陽電池事業 「グローバルリーダーとなる」	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内市場で勝ち組になる ■ 高付加価値ビジネスモデルの構築 ■ 将来の成長に向けた技術開発 ■ 世界市場への本格進出 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワットあたり生産コストは、年間計画の10%低減に沿って順調に進捗 ■ ソーラーフロンティア製品がセキスイハイムおよびトヨタホームのスマートハウスに採用 ■ CIS薄膜系太陽電池の分野で世界最高記録となる変換効率20.9%を0.5cm²セルにおいて達成 ■ 「東北工場」の建設は順調に進捗 ■ CIS技術共同研究開発/現地生産の可能性検討についてニューヨーク州立大学と覚書を締結
電力事業 「事業規模および発電源メニューを拡大する」	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業規模を1ギガワット規模へ拡大 ■ 発電の電源を拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 扇島パワー第3号機および太陽光発電所の建設が計画通り順調に進捗、宇部興産株式会社と共同開発・運営する約21MWのユーエスパワー発電所が7月に運転開始 ■ 京浜製油所扇町工場の跡地において、バイオマス発電所が計画通り建設を開始

主なプロジェクトの進捗状況



石油事業

Projects	2013	2014	2015	2016	2017
■ 構造的コスト競争力の改善	213億円改善	47億円以上改善予定			
■ LPガス事業の統合	☆ 検討 合意		☆ 統合会社 設立	事業統合	
■ ミックスキシレン生産能力増強	☆ 調査・検討 完了	☆ 投資 決定	建設		稼働
■ 石油化学事業の海外展開検討	調査・検討				
■ 供給合理化に向けた事業提携	☆ 検討 合意	評価および実行			



エネルギーソリューション事業

■ (太陽電池) 東北工場	☆ 投資 決定	建設	稼働		
■ (電力) 扇島パワー 3号機		建設		稼働	
■ (電力) バイオマス発電所	☆ 投資 決定	建設	稼働		

2014年第2四半期 主なトピックス



石油事業

Shell V-Power 日本上陸!!

2014年7月、12年ぶりの新ハイオクガソリン「**Shell V-Power**」がいよいよ販売を開始

しました。この「**Shell V-Power**」はシェルとフェラーリの長年のテクニカルパートナーシップの成果として生まれ、香港における1998年の発売後、車の性能進化に併せて改良を続け、現在は日本を含めて世界67カ国で展開するメガブランドとなっています。

最大の特徴はシェル独自の「クリーン&プロテクト・テクノロジー」、エンジン内部の汚れを洗浄し、新たな錆や汚れから保護すること

で、エンジン本来の性能を引き出します。「愛車をいつまでも大切に乗り続けたい」というお客様のニーズに応えた商品です。



エネルギーソリューション事業

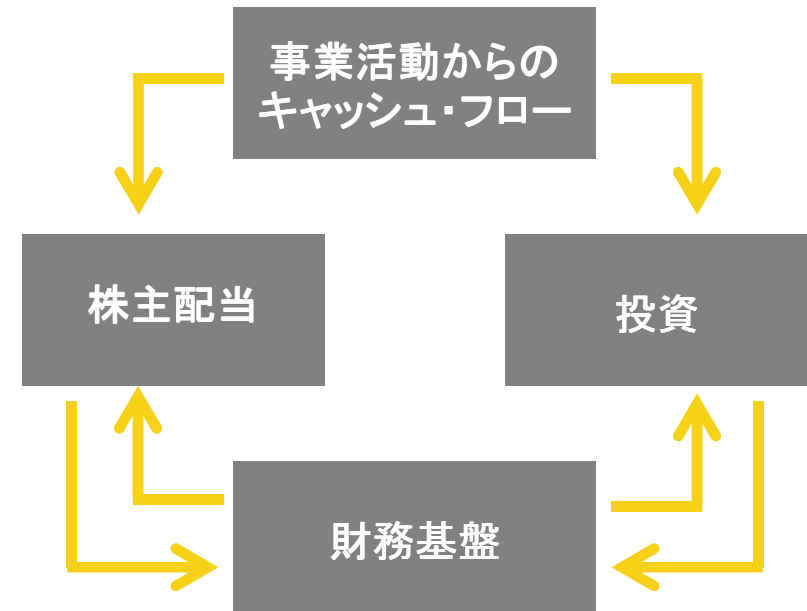
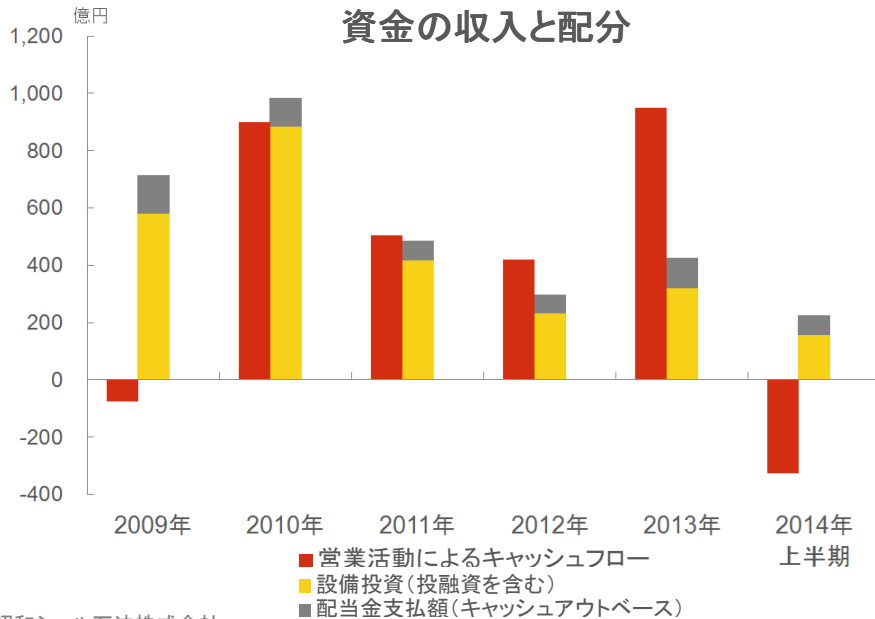
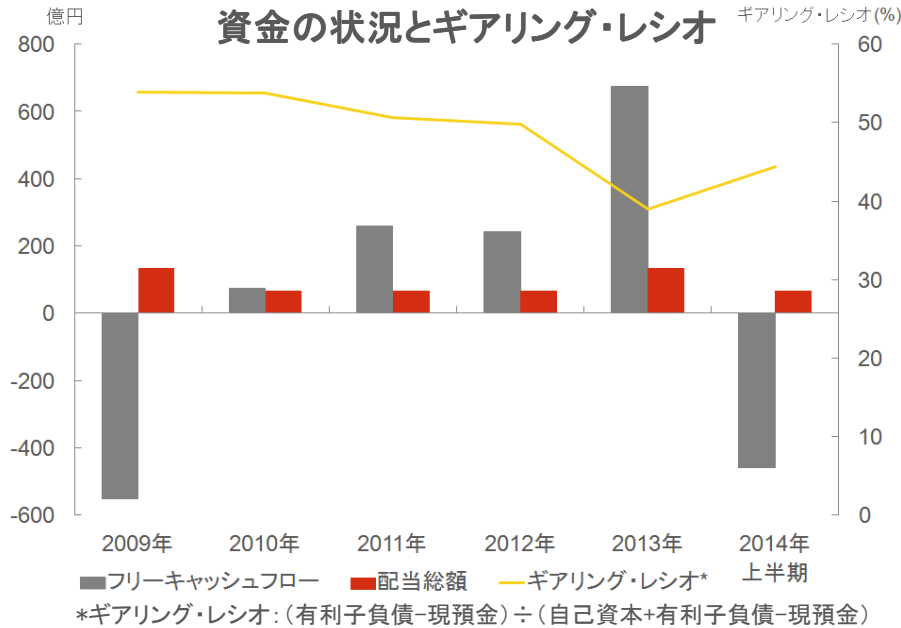
米国ニューヨーク州立大学と共同研究開発 / 生産の可能性について検討

ソーラーフロンティアは、米国ニューヨーク州立大学ナノスケール理工学カレッジ (CNSE) と、ニューヨーク州バッファローにおいてCIS薄膜太陽電池モジュールの共同研究開発/生産を行う可能性について、技術面および経済面での予備調査を実施することで覚書を締結しました。

グローバルリーダーを目指すソーラーフロンティアにとって、海外に生産拠点を確立することは中期経営アクションプラン上の重要なテーマであり、今回の提携はその布石となるものです。

ソーラーフロンティアは現在、最新の技術を導入し将来の海外生産工場のモデルとなる「東北工場」を建設中です。中・長期的な成長に向け、着実に前進しています。

資金の配分

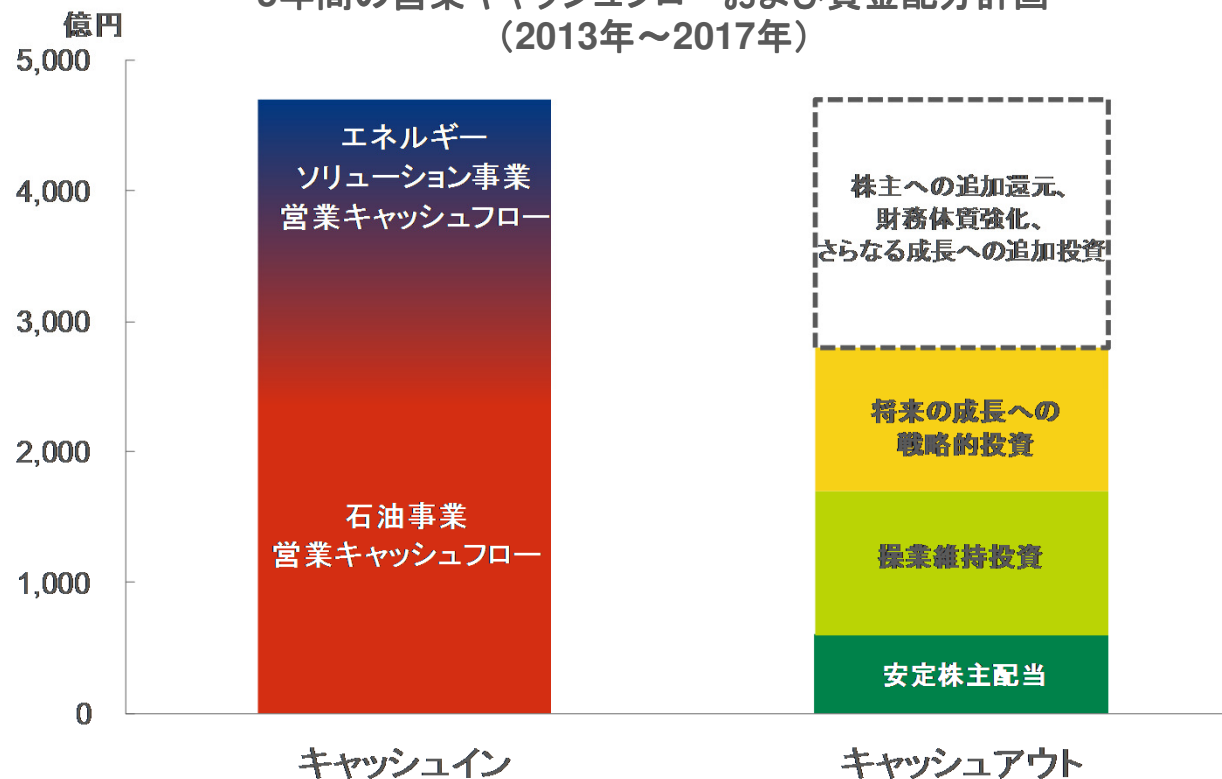


- バランス良く以下の領域へ資金配分を行う
 - ・ 将来への成長投資
 - ・ 強固な財務基盤と高い信用格付けの維持
 - ・ 安定的かつ魅力的な株主還元
- 運転資金の一部において、期末期初のタイミング差異が生じること等に起因して上半期の営業キャッシュフローはマイナス、通期ではフリーキャッシュフローでプラスを見込む
- 日本格付研究所によりA格付けを維持、好条件での社債発行を実施

株主還元

単位： 円	2012年	2013年	2014年
1株当たり年間配当金	18	36	38(予想)
(うち1株当たり中間配当金)	9	18	19

中期経営アクションプランにおける
5年間の営業キャッシュフローおよび資金配分計画
(2013年～2017年)



- 当社方針である安定的かつ魅力的な株主還元に基づき、2014年度の一株当たりの配当予想は38円へ、中間配当金は19円へ増配
- 将来の収益変動があった場合にも、安定した配当および戦略投資が実行可能なキャッシュフローを引き続き確保できる見通し

平成26年12月期連結業績予想

■ 原油価格および為替レート

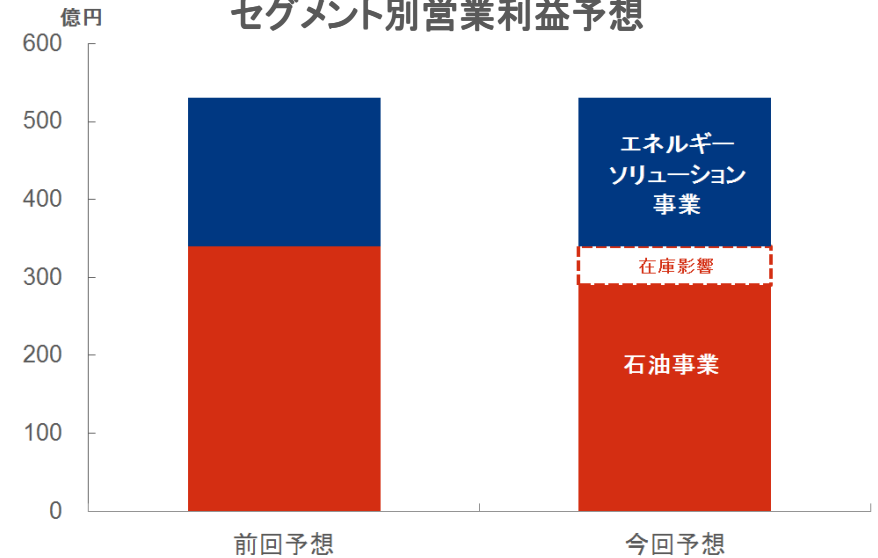
		2014年度		修正値
		当初予想(2月)	今回予想	
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	103	106	3
為替レート	(円/USD)	105	102	-3
	(円/EUR)	130	130	0

■ 連結業績予想

(百万円)	2014年度		修正値
	当初予想(2月)	今回予想	
売上高	3,150,000	3,150,000	-
営業利益	53,000	53,000	-
※在庫影響	0	5,000	+ 5,000
※CCSベース営業利益	53,000	48,000	- 5,000
石油事業	34,000	29,000	- 5,000
エネルギーソリューション事業	19,000	19,000	-
その他および調整額*	-	-	-
経常利益	53,000	53,000	-
※CCSベース経常利益	53,000	48,000	- 5,000
当期純利益	37,000	37,000	-

*「その他および調整額」の2014年度予想は、「石油事業」に含まれています。

セグメント別営業利益予想



<業績予想の前提>

- 石油事業:
 - ✓ 2月に発表した予想利益水準を維持(在庫影響含む)
 - ✓ 国内燃料油マージンは足元の安定した水準を想定、化成品マージンは足元の水準を想定、構造的コスト削減を継続
- エネルギーソリューション事業:
 - ✓ 2月に発表した予想利益水準を維持
 - ✓ 太陽電池事業は生産コスト低減と付加価値販売を推進、緩やかなパネル販売価格下落、電力事業は安定的な利益が継続

Data Book

決算ハイライト (4-6月)

■ 原油価格および為替レート

		2013年度 4-6月実績	2014年度 4-6月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	100.8	106.1
為替レート	(円/USD)	98.8	102.2
	(円/EUR)	129.0	140.1

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2013年度 4-6月実績	2014年度 4-6月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	656,628	729,539	+ 72,911	+11.1%
営業利益	6,045	10,163	+ 4,118	+68.1%
営業外損益	1,378	89	- 1,289	-93.5%
経常利益	7,424	10,253	+ 2,828	+38.1%
※在庫影響	2,366	494	- 1,871	-79.1%
※CCSベース経常利益	5,058	9,758	+ 4,700	+92.9%
特別損益	-126	-1,149	- 1,022	-
当期純利益	5,420	7,188	+ 1,768	+32.6%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報 (4-6月)

■ 売上高

(百万円)	2013年実績 4-6月	2014年実績 4-6月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	625,804	693,529	+ 67,725	+10.8%
エネルギーソリューション事業	28,709	34,166	+ 5,456	+19.0%
その他	2,114	1,843	- 270	-12.8%
売上高 計	656,628	729,539	72,911	+11.1%

■ 営業利益

(百万円)	2013年実績 4-6月	2014年実績 4-6月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	3,078	4,927	+ 1,849	+60.1%
※在庫影響	2,366	494	- 1,871	-79.1%
※石油事業CCS営業利益	711	4,432	+ 3,721	+523.0%
エネルギーソリューション事業	2,720	4,944	+ 2,224	+81.8%
その他	264	281	+ 17	+6.5%
調整額	-16	10	+ 26	-
営業利益 計	6,045	10,163	+ 4,118	+68.1%
※CCS営業利益 計	3,679	9,669	+ 5,989	+162.8%

- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

原油処理実績と販売数量実績 (4-6月)



■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2013年度 4-6月実績	2014年度 4-6月実績
原油処理実績	(千KL)	5,133	5,153
稼働率	(%)	89.8%	80.0%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

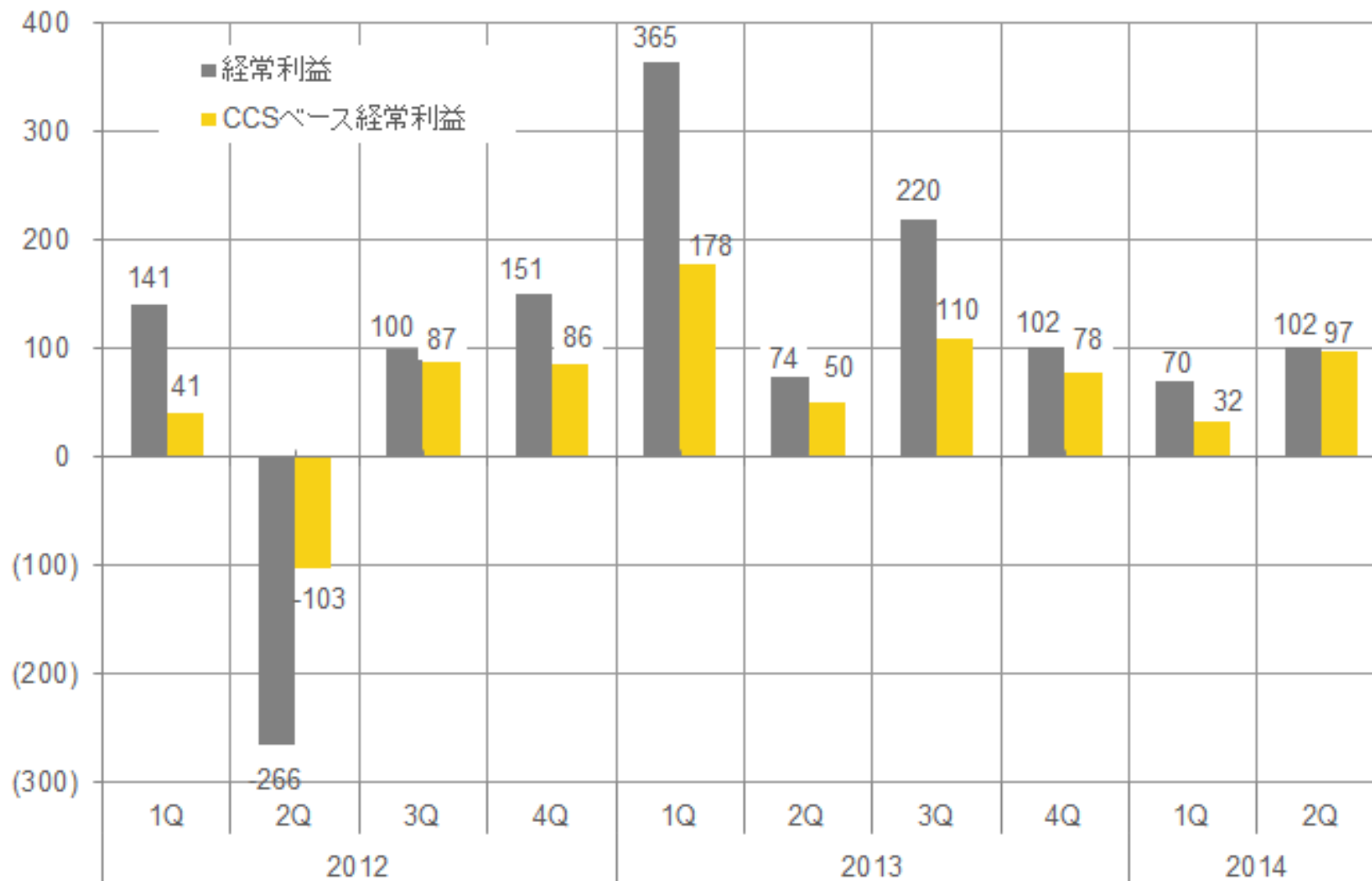
■ 製品別販売数量

(千KL)	2013年度 4-6月実績	2014年度 4-6月実績	前年同期比
揮発油	2,151	2,068	- 3.8%
ジェット燃料	439	463	+ 5.6%
灯油	322	347	+ 7.6%
軽油	1,259	1,358	+ 7.9%
A重油	346	443	+ 28.0%
C重油	280	312	+ 11.3%
化成品* (千MT)	225	283	+ 25.8%
その他	734	615	- 16.2%
国内販売合計	5,756	5,890	+ 2.3%
輸出	231	456	+ 97.3%
総合計	5,987	6,345	+ 6.0%

*化成品: ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

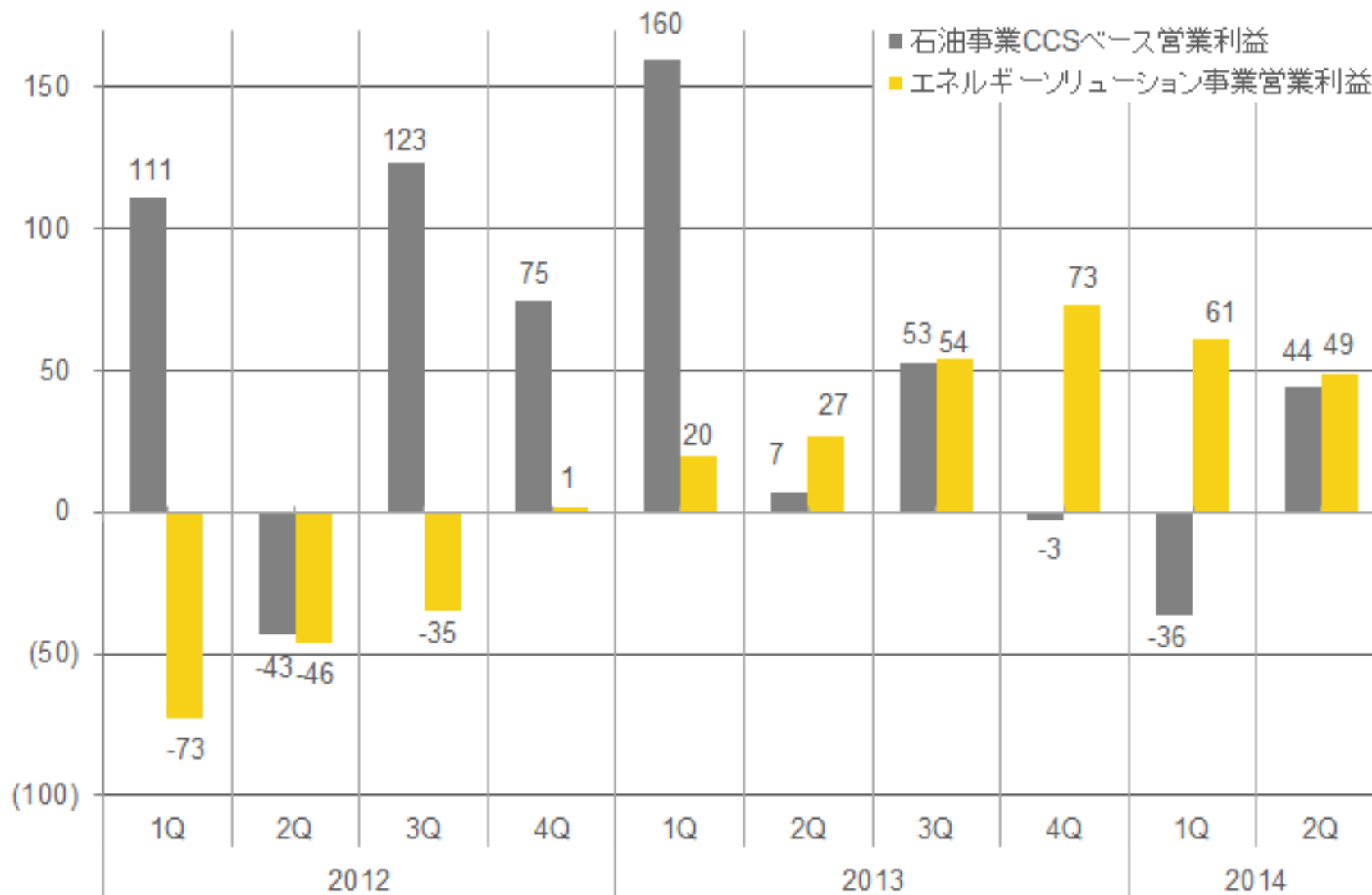
四半期別 経常利益の推移 (CCSベース)

億円



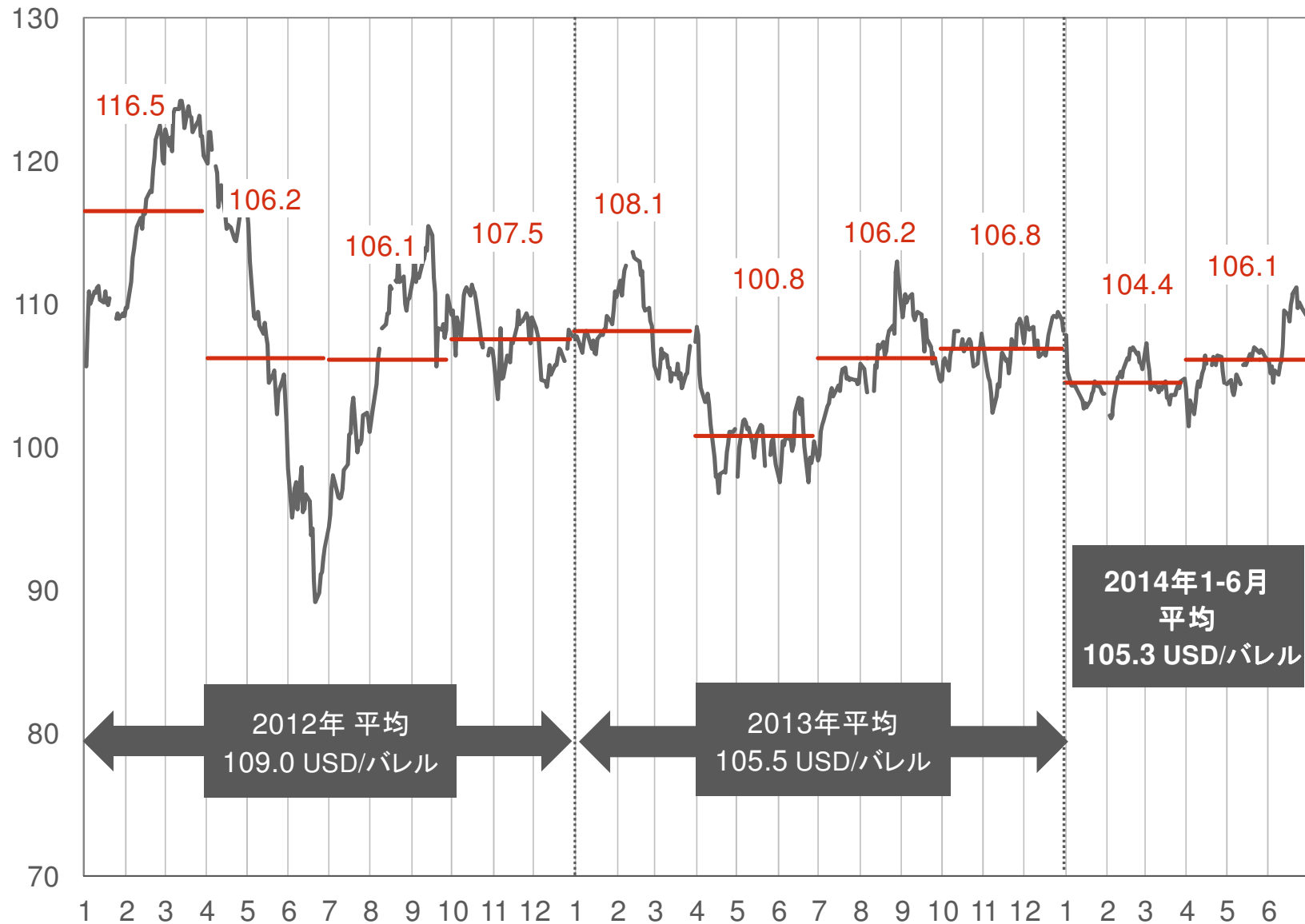
四半期別 セグメント別 営業利益の推移 (CCSベース)

億円



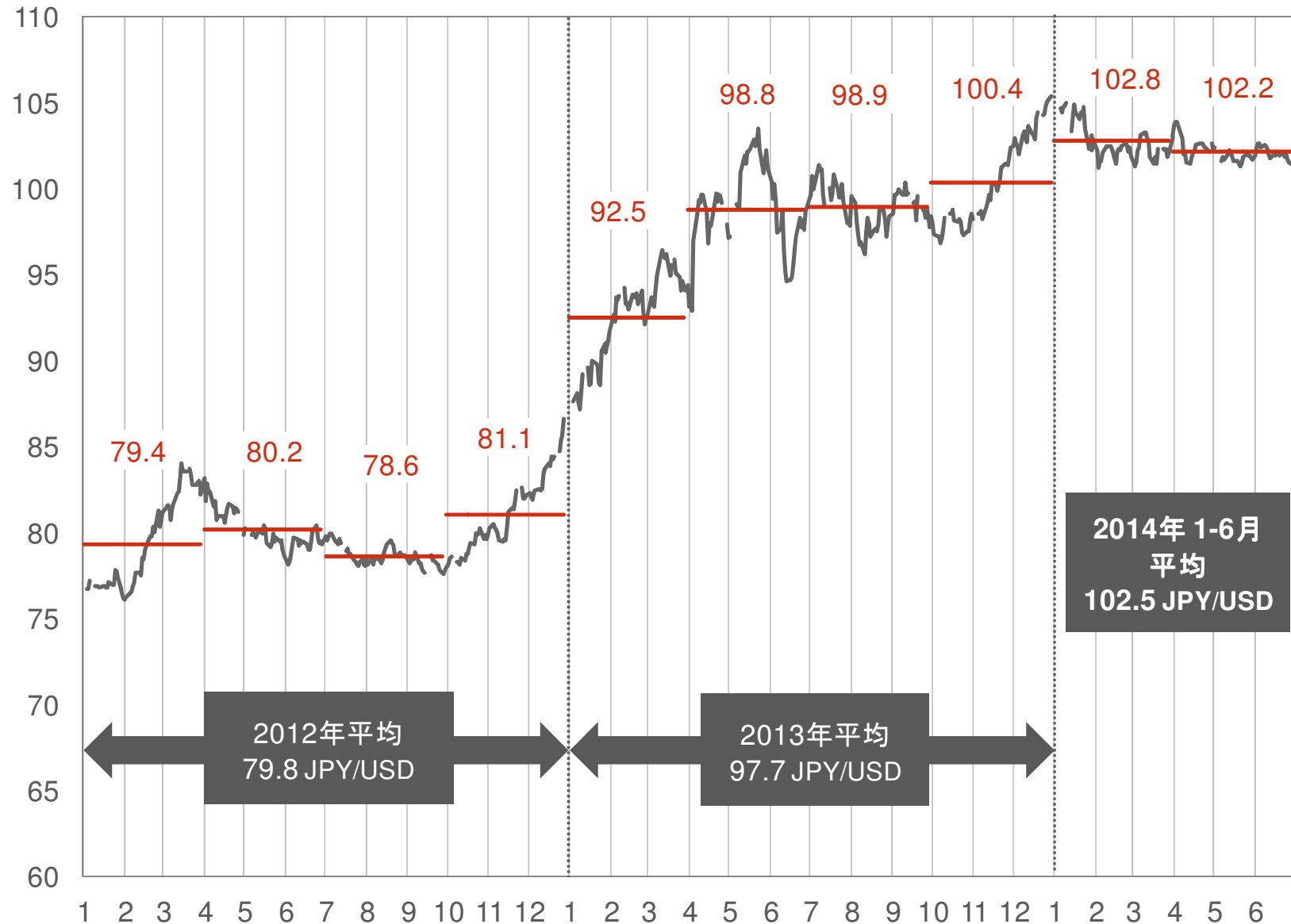
ドバイ原油価格の推移

(USD/バレル)



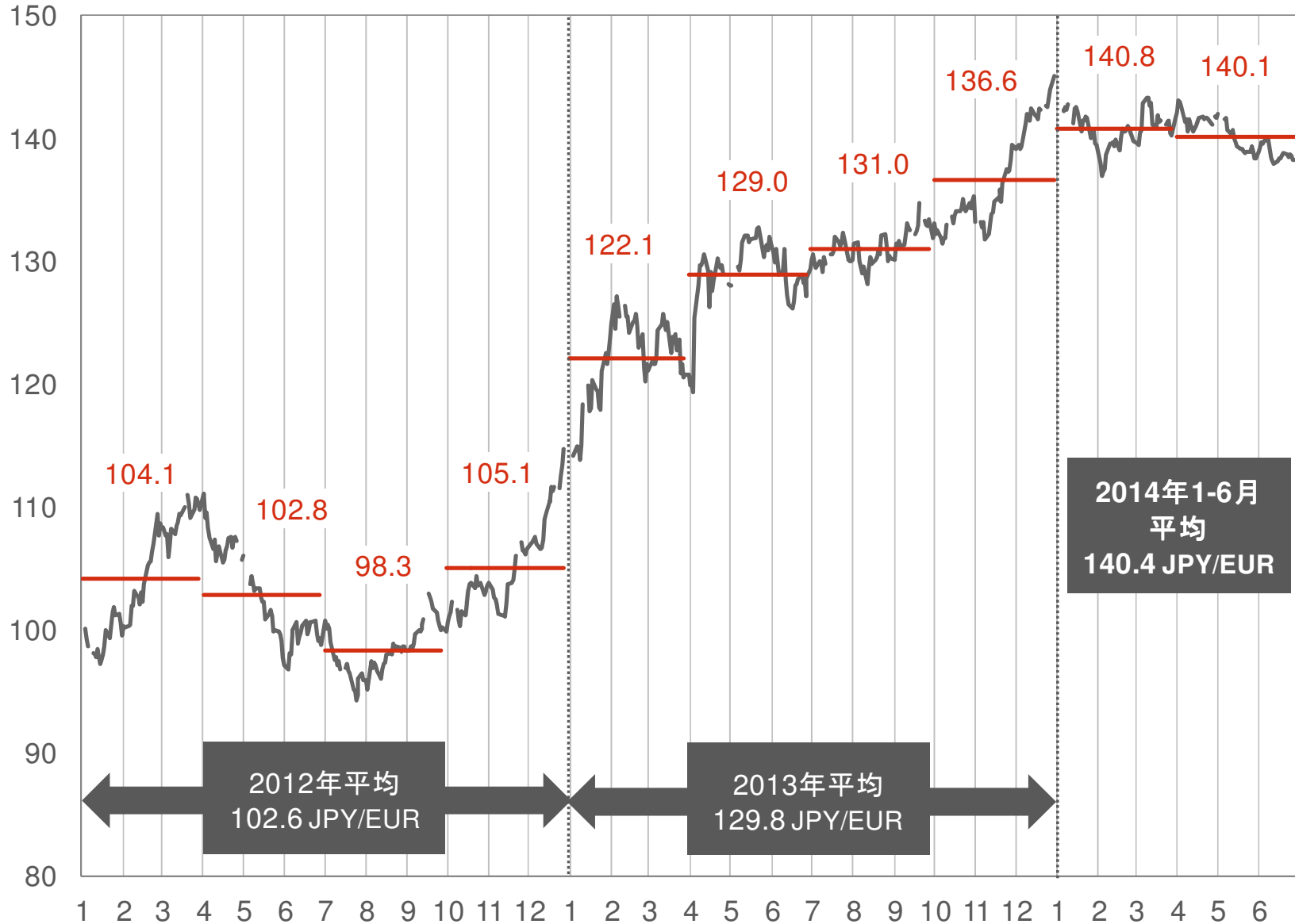
為替レートの推移 (円/アメリカドル 仲値)

(円/USD)



為替レートの推移 (円/ユーロ 仲値)

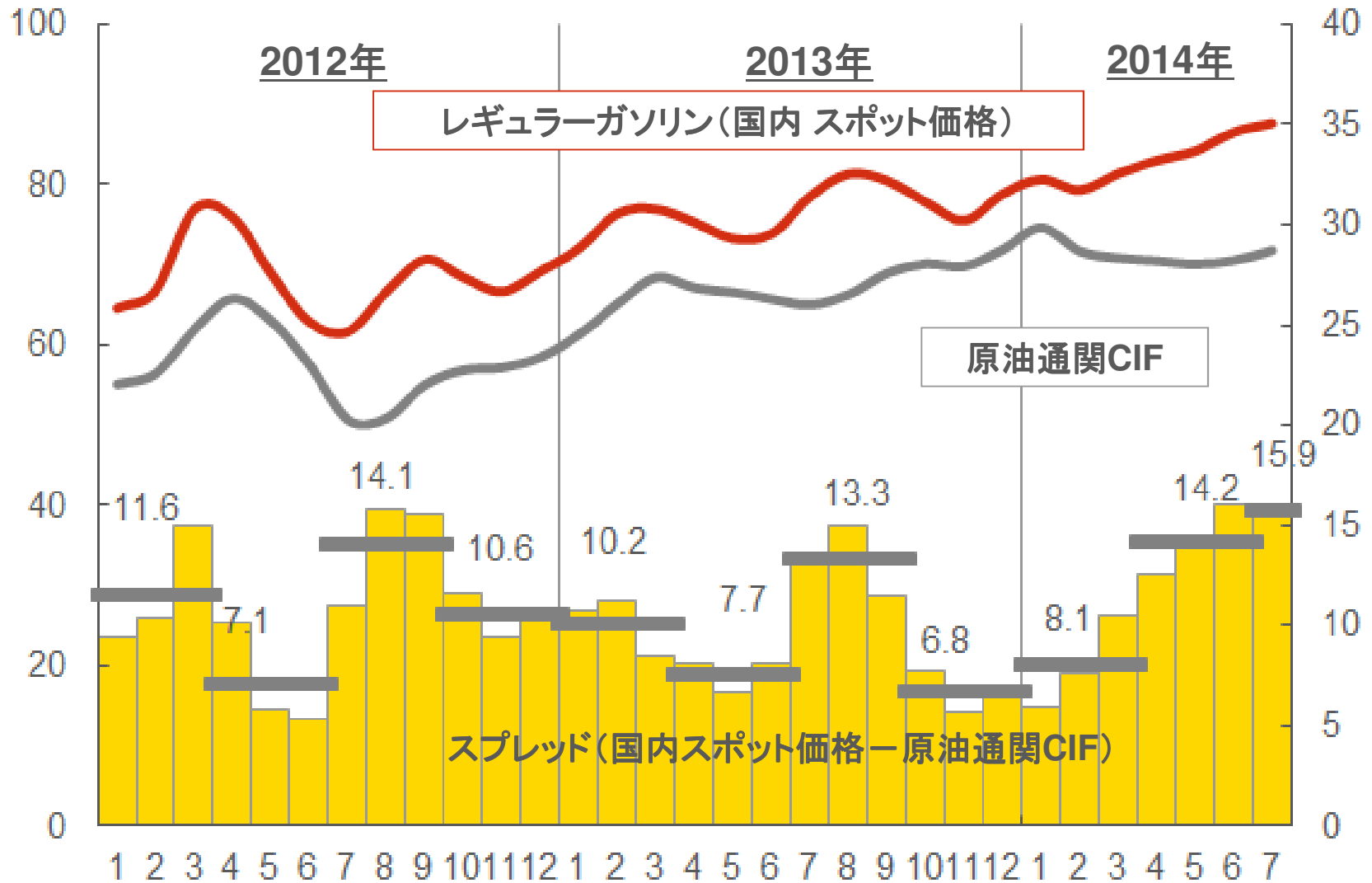
(円/EUR)



国内マーケットの状況① (ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



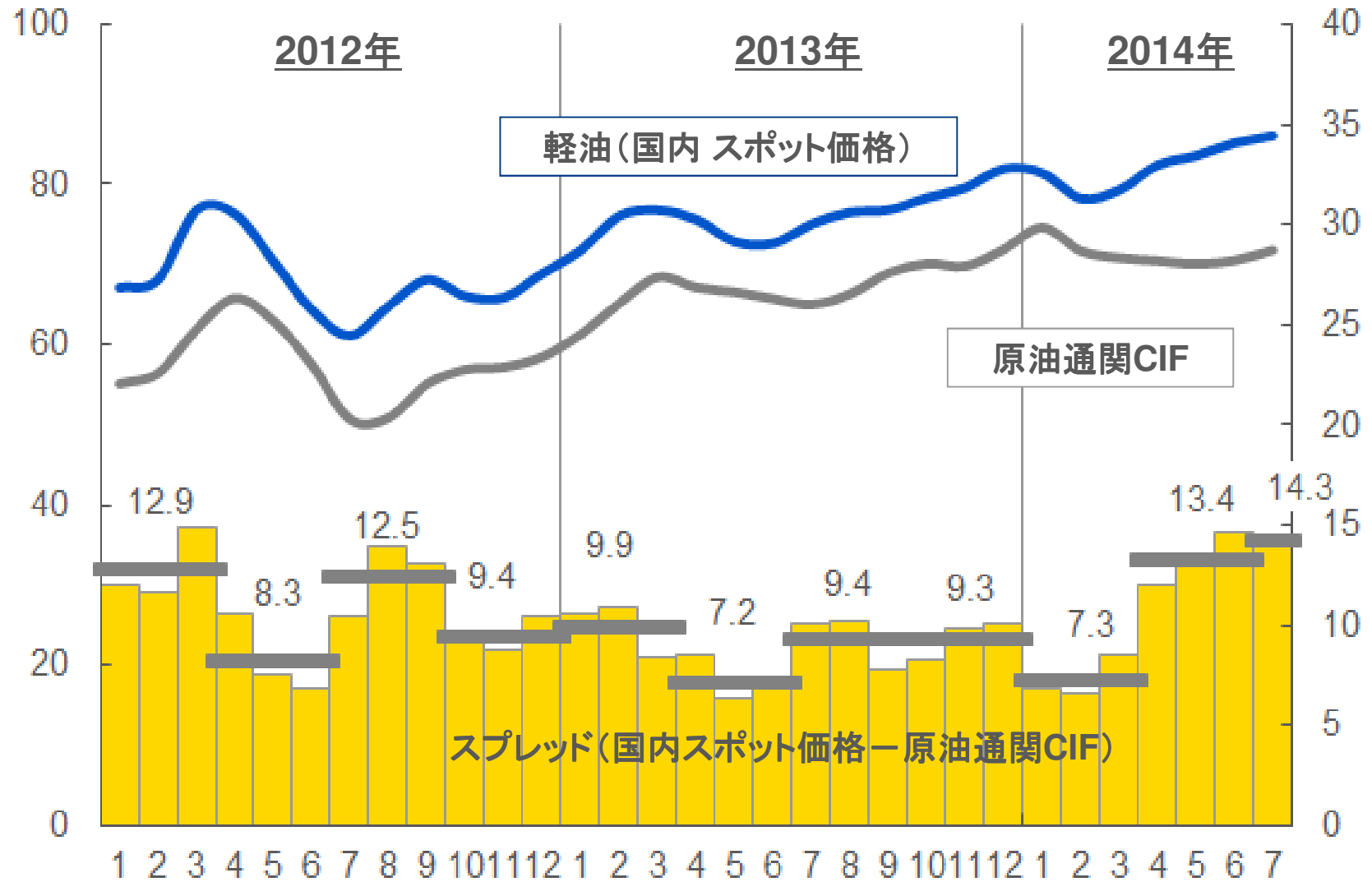
注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より

※2014年7月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況② (軽油)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



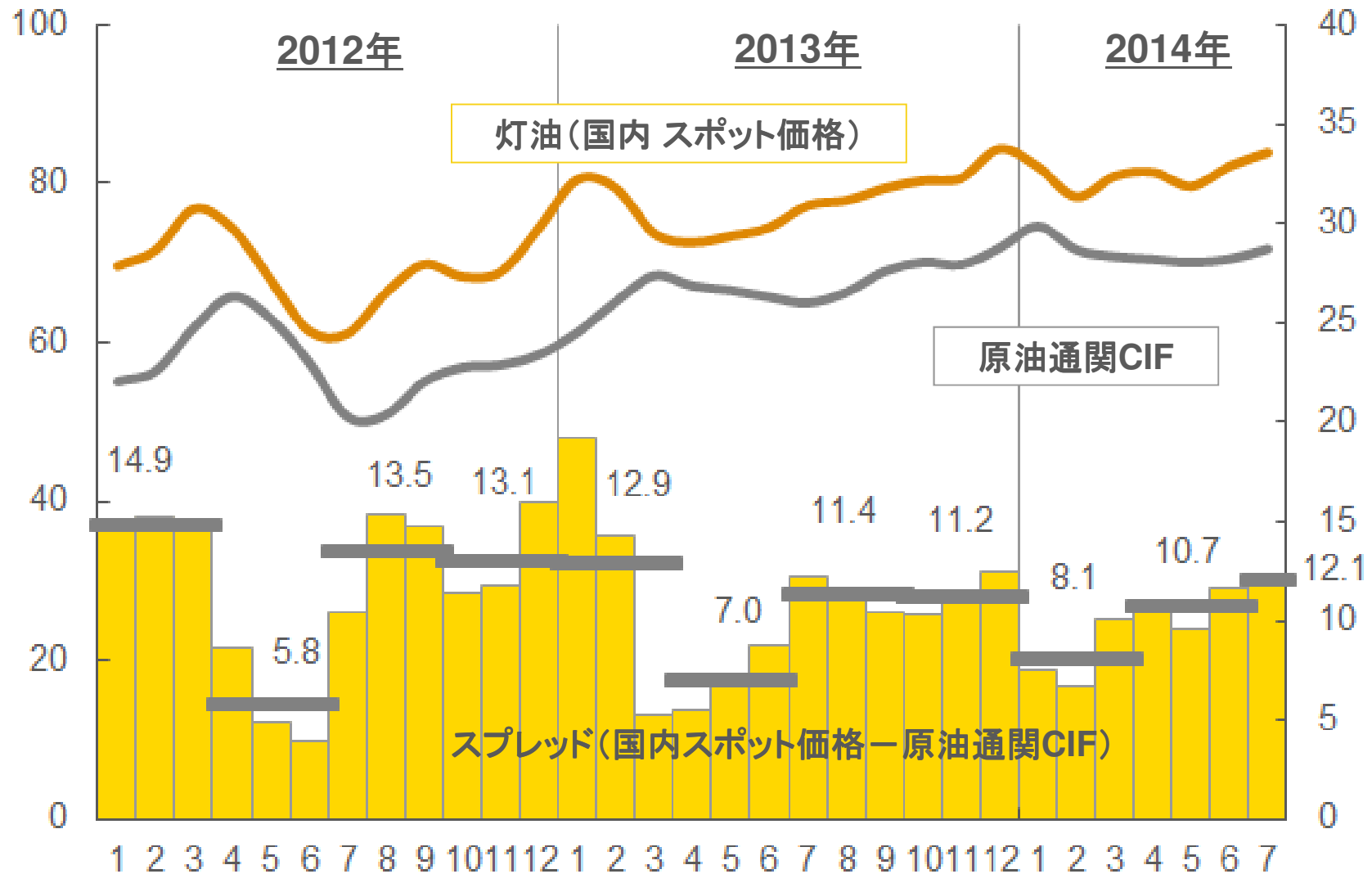
注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より

※2014年7月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況③ (灯油)

原油・製品価格 ¥/L

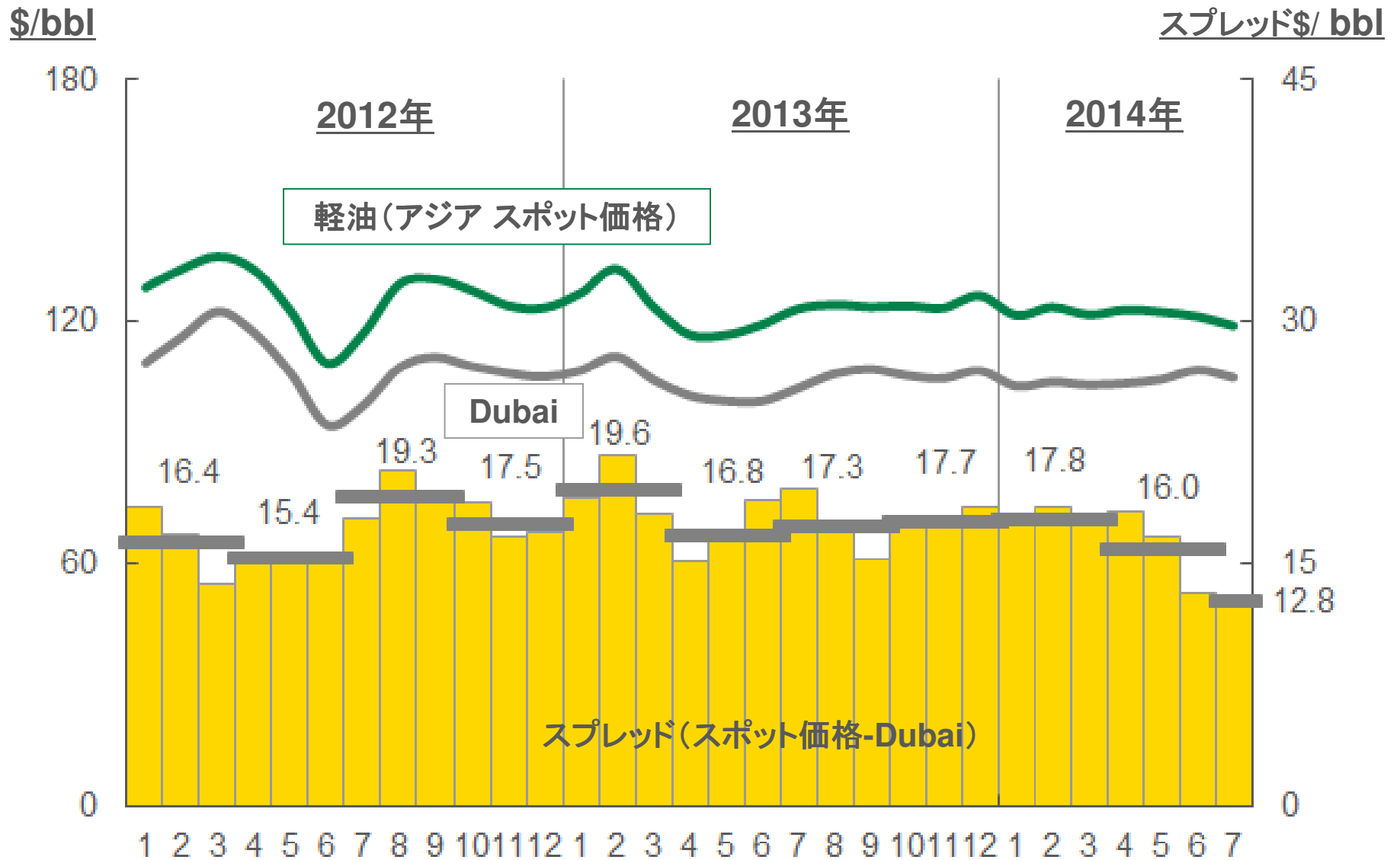
スプレッド¥/L



注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より

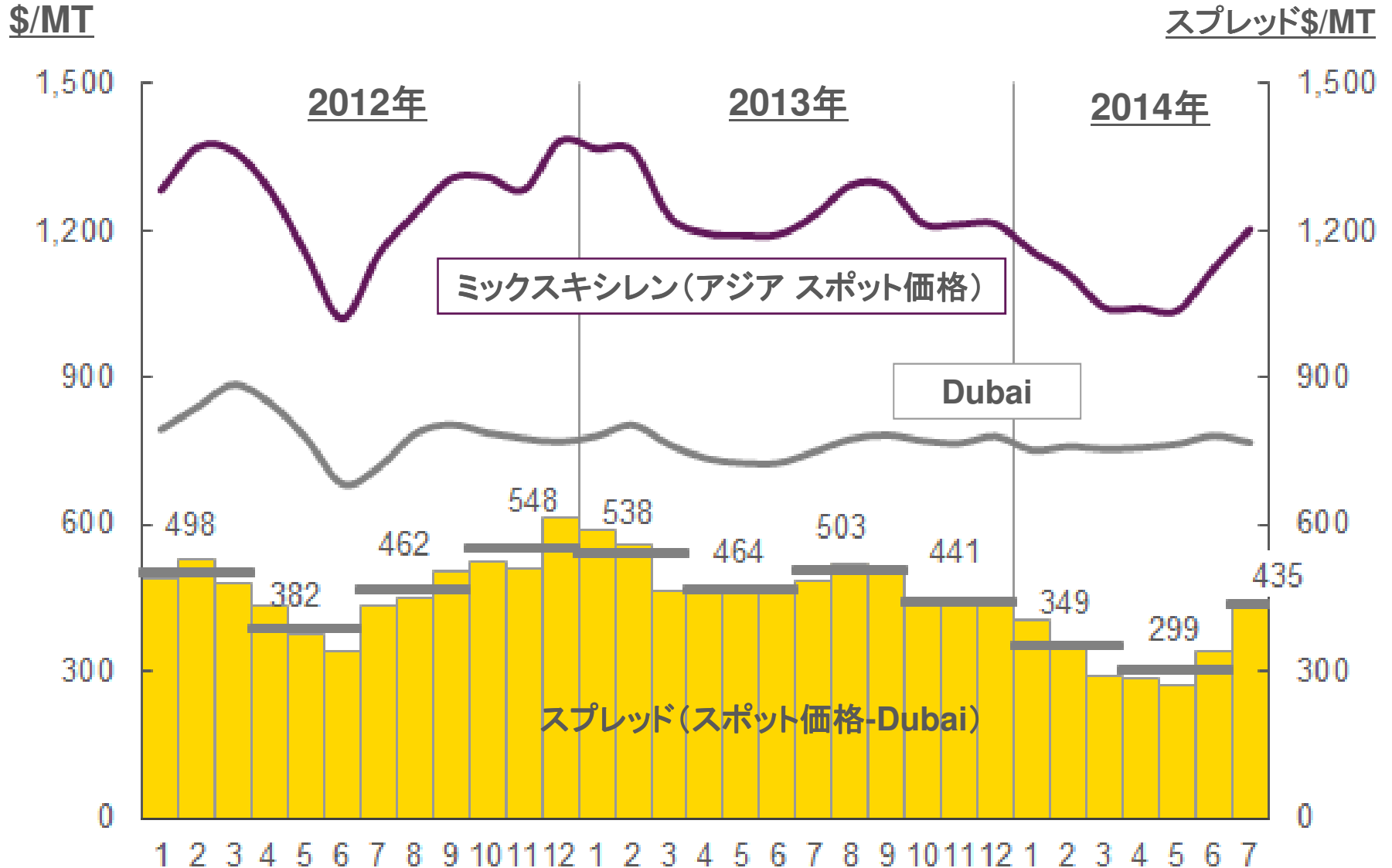
※2014年7月の原油通関CIFは暫定値

海外マーケットの状況① (軽油)



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

